2020年9月1日発行（毎月1回1日発行）（75巻9号）ISSN 0035-7774

労働の科学

Digest of Science of Labour

2020 September 9
Vol.75, No.9

特集

新型コロナウイルスと新しい労働生活(2)

ウィズコロナで問われること

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う仕事や生活への影響と課題／渡邊木綿子
インド・南アジア諸国における新型コロナ予防の職場での取り組み／川上 剛
新型コロナウイルス感染症と向きあう―看護職の現状と課題／橋本美穂
新型コロナ対策の新しい働き方を支える産業保健活動／星野寛子
コロナ禍における教職員の過酷な勤務環境／藤川伸治
新型コロナウイルス感染症と労災補償・労働安全衛生／天野 理
コロナ禍でのごみ収集作業への市民の感謝が意味すること―清掃職員と市民との社会的つながり／藤井誠一郎

巻頭言

パンデミックの歴史が警告するもの
濱田篤郎

連載

凡夫の安全衛生記㊺
福成雄三

Between⑨
髙見晴恵

大原記念労働科学研究所

Digest of Science of Labour

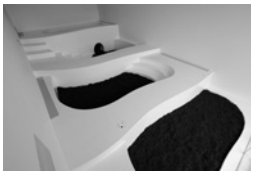
労働の科学

2020 September 9
Vol.75, No.9

巻頭言　俯瞰（ふかん）

パンデミックの歴史が警告するもの …… *1*
濱田 篤郎［東京医科大学病院 渡航者医療センター 教授］

作品　Beginnings：髙見晴惠
素材　綿布
2012年4月14日～21日
オーヴェルガーデン・コペンハーゲン／デンマーク
TANADAピースギャラリー・京都
撮影　小池 晃
表紙デザイン：大西 文子



特集　新型コロナウイルスと新しい労働生活（2）
ウィズコロナで問われること

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う仕事や生活への影響と課題
……［独立行政法人労働政策研究・研修機構］渡邊 木綿子 ……*4*

インド・南アジア諸国における新型コロナ予防の職場での取り組み
ILOにおける好事例アプローチの経験から
……［労働安全衛生・労働監督上級専門家］川上 剛 ……*11*

新型コロナウイルス感染症と向きあう
看護職の現状と課題
……［公益社団法人日本看護協会］橋本 美穂 ……*16*

新型コロナ対策の新しい働き方を支える産業保健活動
……［オムロン エキスパートリンク株式会社］星野 寛子 ……*20*

コロナ禍における教職員の過酷な勤務環境
……［特定非営利活動法人 教育改革2020「共育の杜」］藤川 伸治 ……*26*

新型コロナウイルス感染症と労災補償・労働安全衛生
……［特定非営利活動法人東京労働安全衛生センター］天野 理 ……*32*

コロナ禍でのごみ収集作業への市民の感謝が意味すること
清掃職員と市民との社会的つながり
……［大東文化大学法学部］藤井 誠一郎 ……*36*

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場 21 [見る・活動](116)
長須 美和子 ..... 口絵

Series

労研アーカイブを読む (62)
テレワークという働き方 椎名 和仁 *41*

労研アーカイブを読む (63)
創造的余暇とは何か
桐原葆見の「創造的余暇」論 (2) 鈴木 一弥 *46*

凡夫の安全衛生記 (45)
「指導と支援」協力会社とともに 福成 雄三 *50*

Column

Between (9)
「手」について 髙見 晴恵 *53*

Talk to Talk
陽は高きに 肝付 邦憲 *54*

Information *56*

勞働科學のページ *60*

次号予定・編集雑記 *64*

パンデミックの歴史が警告するもの

濱田 篤郎

２０１９年12月に中国・武漢で発生した新型コロナウイルスの流行は、３月から欧米や中東など世界各地に飛び火し、世界保健機関（ＷＨＯ）は３月11日にパンデミック（世界的流行）の状況にあると発表した。その後も流行は拡大を続け、９月現在の感染者数は３、０００万人、死亡者数は約１、０００人にのぼっている。日本でも４月をピークに第１波、８月をピークに第２波があり、現在までに感染者数は８万人、死亡者数は約１、５００人を数える。

コロナウイルスは、ヒトに風邪をおこすウイルスや、２００３年に流行した急性重症呼吸器症候群（ＳＡＲＳ）の原因ウイルスとして知られていた。今回のコロナウイルスは新型という名前が示すように、ヒトへの感染が初めて確認されたウイルスである。おそらくコウモリなどの哺乳動物がこのウイルスを保有しており、こうした動物にヒトが接触して感染がおきたのだろう。このように、動物から未知のウイルスがヒトに感染することは、過去に何回もおきているが、今回のようにヒトからヒトに感染が拡大し、世界流行になることは大変に稀な出来事だった。

人類は誕生以来、感染症の大流行を何度も経験している。例えば６世紀には、東ローマ帝国を中心にユスティニアヌスの疫病と呼ばれるペストの大流行がおきた。ペストは14世紀にも黒死病として世界的な大流行をおこし、死亡者数がヨーロッパだけで３、５００万人にのぼった。これは当時の人口の３割以上に匹敵する数であり、人類はこの時、絶滅の危機に瀕したのである。その後、16世紀から始まる大航海時代には、ヨーロッパで梅毒が、アメリカ大陸では天然痘が大流行する。また、19世紀の帝国主義の時代には、インドの風土病だったコレラが世界流行をおこした。

このような歴史上の大流行は、元々、風土病として流行していたヒトの病原体が、さまざまな原因で周辺に流行を拡大させておきたものだ。今回の新型コロナのように、未知のウイルスが大流行するようなことは、過去二千年の歴史の中でもほとんど見られない。

このように、今回の流行は歴史上も稀な流行であるが、各国が積極的な流行対策をとることで、次第に拡大の速度は落ちてきている。最終的にはワクチンによる集団免疫が獲得できれば、流行は終息していくことになるだろう。

では、流行終息後の社会はどうなるのか。こうした感染症の大流行は社会に大きな影響を与え、歴史を動かすこともあった。14世紀のペスト流行後のヨーロッパでは、多くの農民が死亡したため、それまでの封建領主による支配体制が崩壊し、中央集権化が進むことになる。また、死への恐怖はキリスト教の信仰心にも影響を及ぼし、それが中世という時代を終焉に導くことになった。

今回の新型コロナの流行も大きな人的被害を生じただけでなく、今後は社会的な変化もおこすことだろう。例えば、社会のグローバル化は今回の流行を増幅させた要因の一つであり、そのあり方に変化がみられるはずだ。国際間の人の動きは少なくなり、その一方で通信技術や物流方法に新たな発展がおこるのではないか。これは産業構造や労働環境の変化にもつながっていく。コロナ流行後の社会では、労働衛生の分野にも新しい考え方や対策が必要とされてくるだろう。

新型コロナの流行は歴史に刻まれるほどの大きな出来事になるだろう。14世紀のペスト流行が中世の幕を降ろし、ルネッサンスの光を導いたように、コロナ後の明るい未来を期待したい。

はまだ あつお
東京医科大学病院 渡航者医療センター教授
主な著書：
・『新疫病流行期――パンデミック時代の本質』バジリコ出版、２０１０年
・『歴史を変えた「旅」と「病」』講談社＋α文庫、２００８年.

参考文献
・濱田篤郎『パンデミックを生き抜く――中世ペストから学ぶ新型コロナ対策』朝日新書、２０２０年.